

科学としての経済学

経済学基礎セミナー

杉原四郎・尾上久雄・置塩信雄 編



有斐閣選書

類人猿の知恵からタイム・マシンまで
身近かな知識を素材として大胆に駆使
し、私たちの生きている現代社会のな
かで「変わるもの」・「変わらないも
の」を見きわめ、未来を展望する科学
的経済学へ読者を招待します。

杉原四郎・尾上久雄・置塩信雄 編

科学としての経済学

経済学基礎セミナー



関書
斐有
選

サダヒロシ 四郎
杉原 四郎

1920年 京都市に生まれる。1941年 京都大学経済学部卒業。現在 甲南大学経済学部教授。主著『ミルとマルクス』ミネルヴァ書房、『マルクス経済学の形成』未来社、『マルクス経済学への道』未来社、『資本論物語』（共編）有斐閣。

オノエ ヒサオ
尾上 久雄

1923年 兵庫県に生まれる。1947年 東京大学経済学部卒業。現在 京都大学経済研究所教授。主著『現代経済政策の理論と現実』有斐閣、ティンベルヘン『経済発展計画論』（翻訳）有斐閣、『経済計画と構造的諸改革』岩波新書、『経済政策論』（共編）有斐閣。

オキシノ ノブオ
置塩 信雄

1927年 神戸市に生まれる。1950年 神戸経済大学卒業。現在 神戸大学経済学部教授。主著『再生産の理論』創文社、『資本制経済の基礎理論』創文社、『蓄積論』筑摩書房、『近代経済学批判』有斐閣。

科学としての経済学

〈有斐閣選書〉

昭和45年 4月25日 初版第1刷発行
昭和53年 3月30日 初版第8刷発行



編 者	杉 原 四 郎 尾 上 久 雄 置 塩 信 雄
発 行 者	江 草 ただ あつ 忠 允
発 行 所	株式 有 斐 閣 会 社

東京都千代田区神田神保町2〜17
電 話 東 京 (264) 1311 (大代表)
郵便番号 [101] 振替口座東京 6-370 番
本郷支店 [113] 文京区東京大学正門前
京都支店 [606] 左京区田中門前町44

印刷 中村印刷株式会社・製本 高橋製本所

©1970, 杉原四郎・尾上久雄・置塩信雄。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります

まえがき

▽企画の意図 内外数多くの経済学入門書があるが、その多くは諸学説の初歩的な解説が中心である。経済学に初めて興味をもった人たちにとって、このような書物が便利であり有用であることはいうまでもない。しかし、これが経済学への招待の唯一のやり方であり、一番有効なものであるとは必ずしも言えない。でき上がった諸学説を分かり易く解説するのではなく、経済や、更に広く社会についての根本的な考え方を初めからぶっつけ、読者とともに考えてゆく方法があるはずである。そして、この方法は、諸学説のあれこれの細部にではなく、経済学の根本問題へ読者を導く点でより有効な方ではなからうか。このような考えのもとに、この書物は計画された。

▽構成と主題 この書物は次の五つの主題によって構成されている。そこで力点のおかれた考え方は次のようである。

《経済分析の視点》 ここでの問題は①その出来事が、人間社会がある限り不変なものなのか、それとも、歴史の一定段階でだけ生じるものかの弁別。②その出来事が自然に由来するのか社会に由来するのかを見分けること。③その社会現象が誰のどのような行為によってひきおこされ、誰にどのような影響を及ぼすかの分析。④社会現象がもつ複雑な因果関係の広く深い分析。

《人間と経済》 ここでの問題は、①人間と他の生物の基本的な同一性と差違性。②人間が変転きわ

まりない自然史のなかで存続・発展してゆく条件。㉔その条件はいかにして充たされるか。

《所有と決定》ここでの問題は、㉕経済における決定を誰が握るかによって、経済現象は全く違ってくる。㉖決定を誰が握るかによって、その決定基準、決定結果も異なってくる。㉗決定をめぐる争いは、所有の問題に必然的につながる。

《資本主義のパラドックス》ここでの問題は、㉘人間の諸行為は、それが無政府的に行なわれるとき、意図とは全く反対の合成結果を生み出すことがある。㉙ある様式での経済活動が繰り返されると、その様式を他の様式で置き換えねばならなくなる事情が生じること。㉚人間社会の再生産を持続するためには、特定社会形態はある段階で止揚されねばならない。

《経済学と法則》ここでの問題は、㉛経済には歴史的な客観的法則が存在すること。㉜経済分析における数学的方法の意義とその限界。㉝社会における経済学のもつ役割。

▽本書は、杉原四郎、尾上久雄、置塩信雄の共同討論に基づいて置塩がプラン作成を担当した。幸い多くの執筆者の協力を得ることができたが、これらの方々の協力を十分に生かし得たかどうか不安を感じている。なお、本書は同じシリーズの『経済像の歴史と現代』および『現代の経済』と内容上の調整がなされている。現代経済学の全体像を知るために、その二書をも併読されるようお勧めする。

一九七〇年三月

編者を代表して

置 塩 信 雄

目次

まえがき

1	科学としての経済学	◆ プロローグ	2
---	-----------	---------	---

1	「見解」と科学	3
---	---------	---

見解の相違ということ
まる暗記か好みによる選択か
科学としての社会科学

2	基本的命題	5
---	-------	---

疑い得ない出発点
社会科学教育への提言

3	経済学の課題	7
---	--------	---

社会科学における経済学の位置
経済学の課題

4	社会科学への招き	9
---	----------	---

驚きは科学の母
タイム・マシンでゆこう
自然現象か社会現象か

5	科学としての経済学	11
---	-----------	----

経済学における対立 科学としての経済学

第I篇	経済分析の視点	15
-----	---------	----

2	変わるもの・変わらないもの	16
---	---------------	----

◆ 経済学と歴史的分析

1	「変わる」という認識	17
---	------------	----

不変の外観 「変わる」という認識

2	変わらないもの	18
---	---------	----

変わらないもの——生存と労働

3	変わるもの——資本制制度のみにみられるもの	20
---	-----------------------	----

変わるもの——労働のあり方 資本制生産における労働 資本制制度のみにみられるもの

4	意識自体も変わる	26
---	----------	----

労働観も変わる 新しい社会では新しい意識が

		3	犯人と被害者 ◆ 物質的利害の分析	32
		1	「人災」の真犯人	33
			真犯人探しの鉄則 「人災」には必ず犯人がいる 犯人捜査の困難さ	
		2	犯人と被害者の関係	36
			真犯人のめぼしとあかし 物価上昇を捜査する 物質的利害をめぐる階級と階級との対立	
		3	犯人隠匿の術	42
			犯人の隠匿をはかる「経済学」 第一の術Ⅱ「人災」と「天災」とのすりかえ 第二の術Ⅱ犯人そのもののすりかえ 二つの種類の経済学の攻防	
		4	因果の鎖 ◆ 経済学と因果分析	48
		1	経済現象の相互連関	49
			「蒸発」の原因を知らねば 生産と消費の依存関係 需要と供給 商品による商品の生産 商	
		2	因果の鎖の解剖	53
			卵が先か、にわとりが先か 因果関係析出の手法	
		3	窮極的なものの追求	58

機能分析と実体分析

5

効率的配分

◆ 資源配分の分析

1 「経済的」とは何か

「経済的」ということ 私人的な合理性と社会的な合理性
 と長期的合理性 効率的配分の問題 短期的合理性

63

62

2 資源配分と経済体制

技術問題と経済問題 市場経済体制
 計画経済体制

65

3 資源配分の歪みとその解決

資本主義の場合 経済的災害は人災

68

第Ⅱ篇 人間と経済

73

6

神と獣の間

◆ 労働

1 人間とは何か

人間の創生 人間の人間化

75

74



2	人間と労働	77
	労働の目的と計画 観念を一般化する能力 道具を使う労働へ	
3	人間と集団生活	80
	家族の起源 最初の分業 火の利用	
4	人間と自然の弁証法	83
	人口の増加 人間と自然	
7	経済のルール ◆生産関係	88
1	ルールの検討	89
	世の中の「しきたり」 地球調査団のレポート ルールを知ること	
2	人と人との関係	91
	「唯我独尊」 人と人との諸関係 生産をめぐる人と人との関係	
3	協働関係	93
	協業 分業 経済のルール	
4	基底的なルール	96
	生産手段の重要性 生産手段を誰が握るか 生産手段をめぐる人と人との関係 生産手段の所有関係は変わる	

5	派生的なルール……………	98
	決定する者、労働する者 カネがなければ生きてゆけない さきゆきの不安 ルール変更の条件	
8	存続の条件 ◆再生産……………	102
1	自然の中の人間……………	103
	自然の統御 再生産の二重性	
2	特定社会の再生産……………	105
	物的手段の再生産 社会関係の再生産 社会維持の最後の保証	
3	人間社会の存続……………	110
	特定社会維持の必要 特定社会廃棄の必要	
9	繁栄と滅亡の間 ◆体制転換……………	114
1	社会存亡の危機……………	115
	生産の喜びと生活の呪い 経済の衰退と社会の危機 夜明け前の闇の深さ	



第Ⅲ篇 所有と決定

129

2	生産関係の交替	119
---	---------	-----

3	人類興廃の岐路	123
	二種の生産関係	
	生産関係の動的展開	
	断絶と継承——過渡期の問題	
	資本主義の特質	
	過渡期としての現代	

10

デジジョン・メイキング	130
◆資本所有と意志決定	

1	生産における意志決定——合理性と営利性	131
---	---------------------	-----

生産活動にとって「決定」は不可欠 資本制生産における意志決定

2	「所有」と「経営」と「支配」	134
---	----------------	-----

所有者が支配する 「所有と経営の分離」

3	独占後期における「所有」と「支配」の変貌	137
---	----------------------	-----

「経営者支配」の抬頭 「所有と支配の分離」の限界 国家企業における所有と支配

11	至 上 命 令	◆ 意志決定の基準——利潤	142
1	利潤の追求	投資の目的	143
		利潤の源泉	143
		利潤率	143
2	資本家の二つの魂		145
	蓄財と蓄積	蓄積と消費	145
		浪費は美德	145
		蓄積および浪費の基礎	145
3	破局と揚棄	破局とその基礎	149
		資本主義社会における非人間化	149
		疎外の揚棄	149
12	資本家の決定	◆ 長期的決定と短期的決定	152
1	投資計画と技術選択		153
	蓄積せよ、蓄積せよ！	技術選択と長期利潤率	153
2	価格政策と生産計画		157
	価格支配力	価格操作	157
	賃金交渉	生産コストの変化	157
		限界原理	157
		競争と結託	157
13	決定権への挑戦	◆ 意志決定と階級	166
1	産業革命の波紋		167



第Ⅳ篇

資本主義のパラドックス

..... 181

14

貯蓄のパラドックス

◆ 貯蓄と所得

..... 182

1 意図と結果のくいちがい

..... 183

「貯蓄のパラドックス」の追跡

2 ケインズと「パラドックス」

..... 185

乗数理論

3 ケインズの述べなかったこと

..... 187

資本主義社会「商品生産による搾取社会

高い「貯蓄率」 高い搾取率

機械とその資本主義的充用

資本家の理性と善意——その限界

2 資本家階級の決定への挑戦

..... 170

ラディツ運動——機械の破壊者たち

労働者階級の新たな抵抗と挑戦

3 資本主義の「墓掘人」——労働者階級

..... 174

労働運動の合法的発展

労働運動の到達点



15	16
貯蓄のパラドックスが生まれる根本原因 「乗数」の本質	
4 社会主義ではこの「パラドックス」はどうなるか……………193	
パニック ◆ 経済恐慌……………196	
1 恐怖・恐慌・危機……………197	
Pan, panic, crisis. 「暗黒の木曜日」から「血の木曜日」へ	
2 幻想と崩壊……………198	
投機的作用 転落 悪循環	
3 「豊富のなかの貧困」……………201	
過剰人口と商品過剰 矛盾の累積過程 恐慌の量的側面 世界恐慌へ	
4 資本蓄積のパラドックス……………204	
資本主義の歴史的・過渡的性格 恐慌の「究極原因」 「蓄積のため	
の蓄積」 「疎外」「解放」	
	16 転 態 ◆ 競争と独占……………210
	1 資本主義経済の発展——らせん状の展開か?……………211
	繰り返しと均衡化 経験的事実の幻想性 湾曲屈折型上昇発展の法則

17

	法則性と一回限り	
2	自由競争から独占へ——転態の哲学……	214
	抽象的思惟か、歴史実体的思考か	
	導的地位確立の歴史的要因	
3	独占への転態の現実化——転態の歴史と論理……	218
	世界的な産業構造・市場構造の変化	
	生産過程の変化に根ざす	
	金融構	
4	独占への謬見——独占と生産の無政府性……	220
	論理主義の悲哀	
	独占と自由競争との両立論の迷妄	
	転態は世界史的	
	◆ 社会の維持と変革 ……	226
1	資本主義とフィードバック……	227
	自治会民主主義とフィードバック	
	えざる手」の名指揮	
	指揮者のいないオーケストラ	
	「見	
2	フィードバックの麻痺……	231
	フィードバックはスーバーマンか	
	フィードバックの麻痺	
	経済恐慌	
	ハーモニーを乱す独占	
3	体制の変革……	234

第V篇 経済学と法則……………241

恐慌もフィードバックの一種 恐慌は再発を許すフィードバック 余り
 にも犠牲の多いフィードバック 真のフィードバック体制の变革

18 『数 学 主 義』 ◆ 経済学と数学……………242

1 経済学と数学……………243

数学利用の大波 数学は論理学である

2 数学利用の利点……………246

思考の明晰 つながり合いの分析

3 数学利用の落とし穴……………248

経済学的正しさと数学的正しさ 問題の選択 数学の独り歩き 数学
 への濡れ衣

19 法則と経済学 ◆ 経済法則……………256

1 人間社会に法則はあるか……………257